

まあビールが安くなるのは嬉しいですよ

# 我が胃袋の叫び

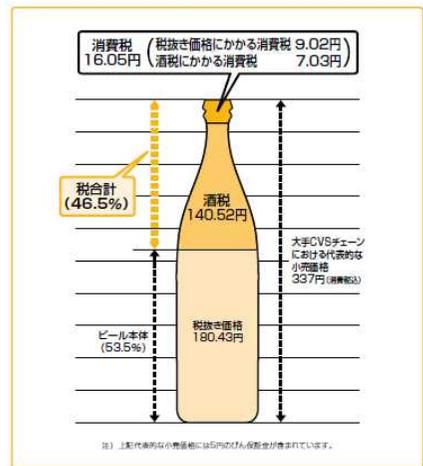
ふちんかん

## 秋になってもビールのお話など

### ビールの税金

そもそもビールの税金は高すぎるのだ。右図はビール酒造組合のHPに載っていたものだが、ビール価格の46.5%が税金であることを示している。コンビニでの販売価格を元にしてあるから、安売り店ならもっと酒税の部分の割合は高くなる。ビールにかかる酒税は本場ドイツの20倍だそう。

これは104年前 (!) に設定された麦酒税の流れをくむもので、当時ビールは贅沢品という考えが根底にあるようですわ。もちろん現在そんな風に考える人はおらんでしょ。なのに税金の高いビールを嬉しそうに飲む。日本人は本当にビールが好きなのですな。



この図、税率を高さで表現しているけど、体積で表現したら、もっと税負担が重いことが分かるのにな、もったいな。

税を取る側からすると、ビールは税金負担率が高くても売り上げが余り下がらない、ありがたい商品として見ています。消費税導入の際も多くの贅沢品の税率が引き下げられたのに、ビール税は下がりませんでした。ビール党は舐められまくっているわけです。

ちなみに他の酒類の税負担率はビールを1とすると、ワインが6分の1、清酒が3分の1、ウイスキーが2分の1となります。税は量に対してかけられるので、アルコール度数で比較するとさらに差は広がります。ちなみに発泡酒はビールの約六割で、この二つで酒税全体の7割強を叩き出しているそうです。

ビール会社は、税金負担が高いことを宣伝せんとあきませんな。なのに税金負担を我々に押しつけたまま、別の方向に進んでしまった……。

11年前からサントリーを皮切りにビール会社は麦芽使用率を下げた「発泡酒」を発売しました。しかし発泡酒の売り上げが伸びると、大蔵省は二度にわたって増税……。

ビール会社は税負担から逃げるように昨年、「その他雑種」や「リキュール類」に分類される、いわゆる第3のビールを開発。原料に麦芽そのものを使用しないものや発泡酒に焼酎を混ぜたものなど、もう「ビール」って何?ってどこまで、こねくり回した商品であります。するとそこにも増税の動きが。おいおい。

ビール会社は、まがいもののビール風飲料で売り上げを伸ばそうとし、財務省は税金を取れるところから取ろうとやっきになる。まさにイタチごっこ。さらにこのイタチごっこが悪質なのは、ビールの持つ香りや味といった本質からどんどん離れた方向に開発がすすむ悪質化へのスパイラルになっているということだ。

この10年の間、我々は、元々法外とも言える高い税金がちょっと安くなる代償に、まがいもののマズいビール風飲料を飲まされることになってしまった。もちろんビールそのものの販売が無くなったわけではないが、このまがいもののビール風飲料の開発にビール各社が注力したためにビールの改良に力が廻らなかったはずだ。本来なら、もっともっと美味しく豊かな香りのビールを開発することができたはずだし、消費者のニーズに応えるバリエーション豊かな商品ラインナップを揃える方向に力を向けることもできたはずなのに、だ。ビール風飲料の増税論が出るたびに、ビール各社の開発努力を無にする云々のコメントが新聞紙面を賑やかすが、もっとも損を喰っているのは、ビール会社からはコケにされ、財務省からは舐められて、放ったらかしにされている消費者なのだ。たまりませんな。

### ビール減税、発泡酒第3のビール増税?

さて数年おきに繰り返されるビール減税問題。2006年度の税制改正の議論はちょっと本気っぽいですが、もっともっと注目されても良いですよ。

ビールを一般嗜好品並みに減税とまではいかんようですが、なんにしても10種類ある酒税を4つくらいにまとめてしまおうというけっこう大胆な案のようです。もちろんビール・発泡酒・第3のビールすべて「ビール類」というひとくくりになるようです。ビール類全体としては、先に書いたように他のグループと比べて割高でしたから、今よりは安くなることが期待できます。もちろん最高税率のビールはかなり安くなるのではないのでしょうかね。そのかわりワインや焼酎は高くなるんでしょうけど。まあ私的にはあんまり飲まないからかまいません。……ってみりんや料理酒も高くなるのかな。

### 発泡酒・第3のビールを飲んでみた

ということで、何十年か経ったら「むかし発泡酒とか第3のビールとか変なビールがあったなあ」なんてことになってるかもしれません。そうなって欲しいものです。

で、今さらながらですが、発泡酒と第3のビールを飲んでみましたよ。思えば10年

前、結婚前後に相棒さんの実家で出された発泡酒(スーパーホップス)を我慢して飲んだこと、5年ほど前、糖質カットやプリン体 OFF につられて買った、キリンの淡麗グリーンや淡麗アルファがあまりにマズかったため、1年間放置した上で流しに捨ててしまったことなど思い出しましたよ。まあ今回飲んだものはどれも当時よりはマシでしたが。

[飲んだもの]

キリンの第3のビール のどごし生  
アサヒの発泡酒 本生 GOLD 麦香る時間  
アサヒの第3のビール 新生  
サントリーの発泡酒こんがり秋生  
サントリーの第3のビール Kire SUPER BLUE  
サッポロの発泡酒 麦 100%生搾り



感想……まあ似たり寄ったり。発泡酒の方がまだマシだということはお分かりました。ただどちらにしても基本的に炭酸と辛口＝ドライ系の味でごまかしている感じですね。ビールもドライが好きという層はすんなり移行できるのかも。私的にはビールはコクと香りと苦味だと思っているので、どれも受け入れられます。そして発泡酒の雑味や臭いがやはり気になります。第3のビールに至っては、言わずもがなです。



6年前、サントリーから「麦の薫り」という銘柄が出たことがありました。麦芽使用率が現在の発泡酒とビールの間で、値段的にも安くなかったです。しかし名前の通り麦芽の香りが豊かでけっこう気に入っていました。ただ売れなかったのでしょうか、ラインナップからすぐに消えてしまいました。今回アサヒから似たような商品名の発泡酒がローソン限定で発売されたので、探しまくって買い求めました。普通のビールと同じくらいの値段にびっくりしました。飲んでみて……たいしたことなくがっかりしましたです。



今回飲んだ中で唯一、評価できるのは、サントリーの「こんがり秋生」ですな。正直、「いけるやん」と思いました。ローストした麦芽の香りが良い感じに鼻に抜けます。アルコール度数も 6.5 とかなり高いですので一本でほろ酔い気分になれますな。



## ビール各社は

来年からの酒税の大幅変更（おそらくビール減税）を見越して、ビールの開発に力を入れ始めていると思います。先に書いたように、これからはビール本来の味の追求とバリエーションがテーマになることでしょう。楽しみです。



アサヒはこの秋、ビール酵母別のモニター商品を発売しました。はじめは一般のビールより割高な設定だったので、ビビってワンセットだけ買ってみましたよ。それぞれの缶には酵母ナンバーが書かれており、ドライ系あり、モルツ系有り、たしかに特徴的な味でした。

ただこのモニター缶、売れなかったのか、発売から一ヶ月くらい経った頃、楽市で24缶で税込み4000円を切る値段にまでディスカウントされてました。安売りのビール以下の値段です。初めに値段から考えると嬉しいディスカウントですが、最初のロットのものがいつまでも並んでいたの、鮮度という点で魅力薄です。本当にモニター用に一回しか作らなかったようすな、残念ながら買えませんでした。



話がそれましたが、ドライー辺倒のアサヒですら、味やバリエーションに注目しているということがわかんと思います。その点では先に行くキリンやサントリーはもうモニタも必要ないくらいデータが蓄積されているのでしょうか。サッポロは……我が道を行くのでしょう。ドライ戦争にも参加せず、黒ラベルで伝統的なビールの味を守るサッポロです。市場が広がれば、そういう頑固な企業ポリシーが認められるだけの余地も十分にできてくると思います。

## 発泡酒は

さきに10年後、発泡酒はなくなっているかのように書きましたが、無くならないとも思います。というのは原材料や麦芽使用率に制限のあるビールに比べて、発泡酒は製造の自由度が高いからです。そこで変わり種ビールや機能性ビール（それこそプリン体・糖質 100%off なんてのは発泡酒でしかできない）として生きる道があります。ビールより高い発泡酒なんてのも出てくるかもしれません。なんにしても税金を押しやるために悪質のスパイラルが消え、味やバリエーションの追求や機能の追求など上向きのスパイラルが構成されることを願っております。はい。

ほな、また。